熊本県中学校体育連盟功労賞を受賞して

元山都町立蘇陽中学校　教諭　斗髙　克敏

この度は、熊本県中学校体育連盟功労賞を頂く栄誉を賜り感謝いたします。多くの生徒･保護者や地域の方々､諸先輩や同僚､体育関係の皆様の支えがあってのことと心より感謝申し上げます。

私が体育の道に進んだのは、中学校の時、剣道部に所属していた私を、中体連陸上大会の練習に参加するよう声をかけてくださった楢木野菊夫先生のおかげだと感謝しております｡先生の｢日本一を目指せ｣の言葉を目標に、高校･大学と駅伝部に所属し、駅伝の楽しさ、また苦しさを肌で感じることで、大学時代には何度か日本一を経験することが出来ました。

私の体育教師のスタートは熊本西高等学校での非常勤講師でした。そこで、中村昭男先生（元体育保健課長）と、また、体育教師２年目は、熊本工業高等学校で赤星秀年先生（元県高体連理事長）と、さらに、初任の宇土鶴城中学校では宮本紀夫先生に出会いました。ここで出会った３名の先生方は､大学の先輩でもあります｡先生方から､体育の授業法や部活動の指導法について、時には厳しく、また時には優しく、たくさんのことを学ばせていただきました。この３校での経験が私の教職３５年間の基礎となったと思います。

初任地である宇土鶴城中学校、また、再配で赴任した県立小国養護学校（現支援学校）に勤務していた頃は、現役の選手として九州一周駅伝等に出場しておりました。その頃は、生徒の陸上の指導より自分の練習のことが優先され、生徒達には「走ることは人生の生きがい」であるという指導をしていたと思います｡その後､熊本市立三和中学校､蘇陽中学校に勤務していた頃は｢走らせることは人生の生きがい｣として、やらせる陸上競技だったように思います。自ら走る、自ら練習に取り組む姿勢が大事であるということが見え始めたのは、蘇陽中学校勤務５年目以降、また､阿蘇北中学校･高森中学校・清和中学校の時期からだと思います。特に清和中学校に勤務していた頃から「走ってもらうことは人生の生きがい」と考えるようになりました。｢走らされる｣のではなく､｢自ら走る｣心を中学生の時期にしっかり育てることは、その後の陸上競技に対する心の糧になると思います。

指導者側が心に余裕を持ち、中学生の時期に走ることの楽しさや、自ら練習に取り組むことの大切さを伝えていく、これが指導者の使命であるということを生徒から教えてもらいました。

このように陸上競技の指導が出来たのも、保護者をはじめ、素晴らしい生徒との出会いに恵まれたからだと思います。「ありがとう」の感謝の一言に尽きます。

最後になりましたが、熊本県中学校体育研究会・熊本県中学校体育連盟の益々の発展と諸先生方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、お礼とさせていただきます。本当にありがとうございました。